

あいさつで変える日本

城里町立桂中学校 三年

富田美咲

日本の課題の一つに少子高齢化があります。少子高齢化で地域では過疎化が起こり、住民同士が助け合うことが大切になってきています。ですが、住民同士の関わり、特に中学生は地域の年配の方と関わりを持つことは多くはありません。また、最近はSNSなどで世界中の人々とつながることができるようになりました。しかし、そのことによって身近な人・地域の人との関わりは薄れていっているように感じます。私の住んでいる町も少子高齢化が進んでいる町の一つです。そんな町で生活する私はあいさつを大切にしています。

私は中学校へ自転車で通学していて、道でそれ違った人にはいさつをするようにしています。そうすると相手も笑顔でいさつを返してくれたり、「おかえり」「気をつけて

帰つてね」などと温かい声をかけてくれたりして、とても嬉しくなります。毎日あいさつしていると時々、年配の方ともちよつとした世間話をするようになりました。また、夏の暑い日に私が熱中症になりかけているのを見つけて声をかけてくれたこともあります。中学生の私が関わる機会がそう多くない年配の方々と、あいさつをすることによって結びつきが強くなっている気がします。あいさつをすることによって、つながりを持ち、いざというときに助け合える関係をつくつていけるのではないかと思つています。それに、あいさつをするのに何の準備も計画も必要ありません。意識するだけですぐに実行することができまます。わたしは、あいさつは簡単で一番身近なコミュニケーションツールだと思っています。初めて会った人にもまず

はいさつをしてから話を始めますよね。そのように、あいさつは地域の方々との関係を広めていく力もあるのではないでしようか。

日本では家族がいても一人で食事をする孤食が増えているそうです。子供だけで食べる、または一人で食べる子供の約半数は「ごちそうさま」を言っていないそうです。ごちそうさまは料理や食材を作った人にも、命に対しても感謝する大切な言葉です。けれども大人と食べる子供は約六割、家族そろって食べる子供は約七割が「ごちそうさま」を言うそうです。誰かと一緒に食べることは、命の大切さを理解して食べるということに繋がります。孤食を減らすためには家族とのコミュニケーションを取り、食事の時間について話し合うことが大切です。そのためにも、まずは「おはよう」「ただいま」などあいさつをすることが大切だと思います。あいさつは互いの存在を確認し、身近に感じることで互いを認め合えるものだと思います。そして互いに認め合うことは相手を尊重し、わかり合おうとすることにも繋がります。つまり、あいさつをすることによってコミュニケーションがしやすくなるということなのではないでしょうか。実際に私も祖父母といつしょに住むようになつて「ただいま」「おかえり」とあいさつをし合うよう

になつてから、話すときに笑顔が増えたり、目を見て話すようになつたりして、とてもコミュニケーションが取りやすくなりました。

このように日本にとつてあいさつは関係を深めるためにも感謝の気持ちを忘れないためにもとても大切です。例えば、朝起きて「おはよう」、朝ご飯を食べるときに「いただきます」「ごちそうさま」、登校して「おはようございました」「給食のときも」「いただきます」「ごちそうさまでした」、部活のときには「よろしくお願いします」「ありがとうございます」「ございました」、帰るときには「さようなら」、夕ご飯のときにも「いただきます」「ごちそうさま」、寝る前に「おやすみ」。日常でも、これほどたくさんのがいさつが溢れています。すべてが解決できるわけではないですが、一人ひとりのちょっとした意識で課題はすこしづつ変えていけるはずです。

